

受 検 番 号	氏 名

令和 3 年度

2 級建築施工管理技術検定 (前期)

第一次検定問題

令和 3 年 6 月 13 日(日)

[注 意 事 項]

- ページ数は、表紙を入れて 18 ページです。
- 試験時間は、10 時 15 分から 12 時 45 分です。
- 問題の解答の仕方は、次によってください。
 - [No. 1]～[No. 14]までの 14 問題のうちから、9 問題を選択し、解答してください。
 - [No. 15]～[No. 17]までの 3 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 18]～[No. 28]までの 11 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。
 - [No. 29]～[No. 38]までの 10 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 39]～[No. 42]までの 4 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 43]～[No. 50]までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
- 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
- 問題番号 [No. 1]～[No. 38]、[No. 43]～[No. 50]は、四肢一択です。

正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
- 問題番号 [No. 39]～[No. 42]は、施工管理法の応用能力問題で四肢二択です。

正解と思う肢の番号を 2 つ選んでください。

なお、選んだ肢の番号が 2 つとも正しい場合のみ正答となります。
- 解答の記入にあたっては、次によってください。
 - 解答は、別の解答用紙に、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
 - 解答は、選んだ番号を右のマーク例に従って塗りつぶしてください。
 - マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
- 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
- この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
- 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
- この問題用紙は、第一次検定の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。途中退席する場合は、持ち帰りできません。



※ 問題番号 [No. 1] ~ [No. 14] までの14問題のうちから、9問題を選択し、解答してください。

[No. 1] 湿度及び結露に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 絶対湿度が100%になる温度を露点温度という。
2. 壁体の中に熱伝導率の大きい場所がある場合に、熱が集中して流れるこの部分を熱橋という。
3. 冬季暖房時に、室内の水蒸気により外壁などの室内側表面で生じる結露を表面結露という。
4. 乾燥空気1kgあたりに含まれている水蒸気の質量を絶対湿度という。

[No. 2] 照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 一般に直接照明による陰影は、間接照明と比べ濃くなる。
2. 点光源による照度は、光源からの距離の2乗に反比例する。
3. 色温度は、絶対温度で示し、単位はlm（ルーメン）である。
4. タスク・アンビエント照明は、全般照明と局部照明を併せて行う方式である。

[No. 3] 色に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 一般に明度が高い色ほど膨張して見える。
2. 一般に同じ色でもその面積が小さいほど、明るさや鮮やかさが増して見える。
3. 2つの有彩色を混ぜて灰色になるとき、その2色は互いに補色の関係にある。
4. 補色どうしを対比すると、互いに強調しあい、鮮やかさが増して見える。

[No. 4] 木造在来軸組構法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 構造耐力上主要な部分である柱の有効細長比は、150以下とする。
2. 引張力を負担する木材の筋かいは、厚さ1.5cm以上で幅9cm以上とする。
3. 筋かいを入れた構造耐力上必要な軸組の長さは、各階の床面積が同じ場合、2階の方が1階より大きな値となる。
4. 3階建ての1階の構造耐力上主要な部分である柱の断面は、原則として、小径13.5cm以上とする。

[No. 5] 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 柱の出隅部の主筋には、末端部にフックを付ける。
2. 梁は、圧縮側の鉄筋量を増やすと、クリープによるたわみが小さくなる。
3. 梁主筋とコンクリートの許容付着応力度は、上端筋より下端筋の方が大きい。
4. コンクリートの設計基準強度が高くなると、鉄筋とコンクリートの許容付着応力度は低くなる。

[No. 6] 鉄骨構造の接合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 高力ボルト接合の摩擦面には、ショットブラスト処理などによる一定の値以上のすべり係数が必要である。
2. 隅肉溶接は、母材の端部を切り欠いて開先をとり、そこに溶着金属を盛り込んで溶接継目を形づくるものである。
3. 応力を伝達させる主な溶接継目の形式は、完全溶込み溶接、部分溶込み溶接、隅肉溶接である。
4. 溶接と高力ボルトを併用する継手で、高力ボルトを先に締め付ける場合は両方の許容耐力を加算してよい。

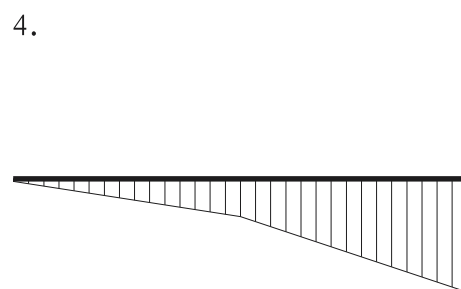
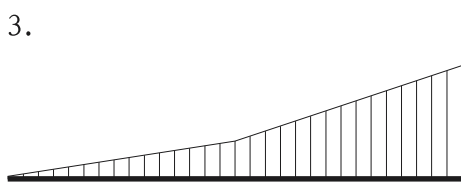
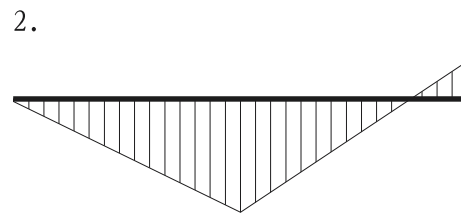
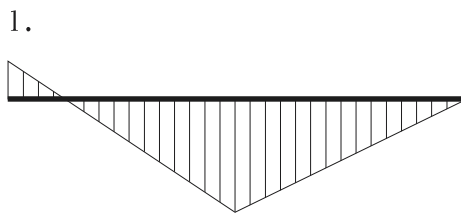
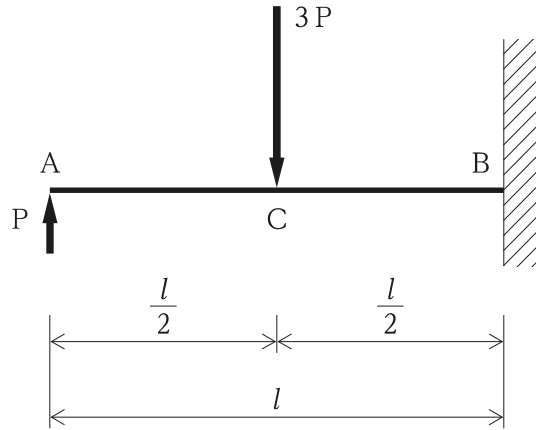
[No. 7] 地盤及び基礎構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 直接基礎は、基礎スラブの形式によって、フーチング基礎とべた基礎に大別される。
2. 水を多く含んだ粘性土地盤では、圧密が生じやすい。
3. 沖積層は、洪積層に比べ建築物の支持地盤として適している。
4. 複合フーチング基礎は、隣接する柱間隔が狭い場合などに用いられる。

[No. 8] 部材の応力度の算定とそれに用いる係数の組合せとして、最も不適当なものはどれか。

1. せん断応力度の算定 ———— 断面一次モーメント
2. 曲げ応力度の算定 ———— 断面二次モーメント
3. 縁応力度の算定 ———— 断面係数
4. 引張応力度の算定 ———— 断面二次半径

[No. 10] 図に示す片持梁 AB において、点 A に集中荷重 P 及び点 C に集中荷重 3P が同時に作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。
 ただし、曲げモーメントは、材の引張側に描くものとする。



[No. 11] コンクリートに関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. スランプが大きいほど、フレッシュコンクリートの流動性は大きくなる。
2. 水セメント比が大きいほど、コンクリートの圧縮強度は大きくなる。
3. 単位セメント量や細骨材率が大きくなると、フレッシュコンクリートの粘性は大きくなる。
4. コンクリートの圧縮強度が大きくなると、ヤング係数は大きくなる。

[No. 12] 日本産業規格 (JIS) に規定するセラミックタイルに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 床に使用可能なタイルの耐摩耗性には、耐素地摩耗性と耐表面摩耗性がある。
2. 有機系接着剤によるタイル後張り工法で施工するタイルには、裏あしがなくてもよい。
3. 裏連結ユニットタイルの裏連結材には、施工時に剥がすタイプと剥がさないタイプがある。
4. うわぐすりの有無による種類には、施ゆうと無ゆうがある。

[No. 13] シーリング材に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ポリウレタン系シーリング材は、施工時の気温や湿度が高い場合、発泡のおそれがある。
2. シリコン系シーリング材は、耐候性、耐久性に劣る。
3. 変成シリコン系シーリング材は、ガラス越し耐光接着性に劣る。
4. アクリルウレタン系シーリング材は、ガラス回り目地に適していない。

[No. 14] 内装材料に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 木毛セメント板は、断熱性、吸音性に優れている。
2. けい酸カルシウム板は、軽量で耐火性に優れている。
3. パーティクルボードは、木材小片を主原料として接着剤を用いて成形熱圧したものである。
4. 強化せっこうボードは、芯のせっこうに油脂をしみ込ませ、強度を向上させたものである。

※ 問題番号 [No. 15] ~ [No. 17] までの3問題は、全問題を解答してください。

[No. 15] アスファルト舗装に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 路盤は、舗装路面に作用する荷重を分散させて路床に伝える役割を持っている。
2. 表層は、交通荷重による摩耗とせん断力に抵抗し、平坦ですべりにくく快適な走行性を確保する役割を持っている。
3. プライムコートは、路床の仕上がり面を保護し、路床と路盤との接着性を向上させる役割を持っている。
4. タックコートは、基層と表層を密着し、一体化する役割を持っている。

[No. 16] 建築物の電気設備とそれに関する用語の組合せとして、最も関係の少ないものはどれか。

1. 電力設備 ————— 同軸ケーブル
2. 照明設備 ————— コードペンダント
3. 電話設備 ————— PBX
4. 情報通信設備 ————— LAN

[No. 17] 給排水設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 圧力水槽方式の給水設備は、給水圧力の変動が大きく、停電時には給水が期待できない。
2. 地中埋設排水管において、枘を設ける場合、雨水枘には泥だめを、汚水枘にはインバートを設ける。
3. 水道直結直圧方式は、水圧が大きすぎるため、2階建住宅の給水には採用できない。
4. トラップとは、悪臭などが室内へ侵入するのを防ぐためのものをいう。

※ 問題番号 [No. 18] ~ [No. 28] までの 11 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。

[No. 18] 埋戻しに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 埋戻し土に用いる透水性のよい山砂は、水締めで締め固めた。
2. 埋戻し土に用いる流動化処理土は、建設発生土に水を加えて泥状化したものに固化材を加えたものを使用した。
3. 埋戻し土に用いる砂質土は、粒度試験を行い均等係数が小さいものを使用した。
4. 埋戻し土に用いる山砂は、砂に適度の礫やシルトが混入されたものを使用した。

[No. 19] 鉄筋のかぶり厚さに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 設計かぶり厚さは、最小かぶり厚さに施工精度に応じた割増しを加えたものである。
2. かぶり厚さの確保には、火災時に鉄筋の強度低下を防止するなどの目的がある。
3. 外壁の自地部分のかぶり厚さは、自地底から確保する。
4. 屋内の耐力壁は、耐久性上有効な仕上げがある場合とない場合では、最小かぶり厚さが異なる。

[No. 20] 鉄骨製作工場における錆止め塗装に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 組立てによって肌合せとなる部分は、錆止め塗装を行わなかった。
2. 柱ベースプレート下面のコンクリートに接する部分は、錆止め塗装を行わなかった。
3. 素地調整を行った鉄鋼面は、素地が落ち着くまで数日あけて錆止め塗装を行った。
4. 錆止め塗装を行う部材は、原則として塗装検査以外の検査を終了した後に塗装を行った。

[No. 21] 在来軸組構法における木工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. せいが異なる胴差の継手は、受材心より 150 mm 程度持ち出し、腰掛けかま継ぎとし、ひら金物両面当て釘打ちとした。
2. 束立て床組の大引の継手は、床束心で腰掛けあり継ぎとし、釘打ちとした。
3. 筋かいと間柱の交差する部分は、間柱を筋かいの厚さだけ欠き取って筋かいを通した。
4. ラグスクリー部のスクリー部の先孔の径は、スクリー径の 70 % 程度とした。

[No. 22] 木造2階建住宅の解体工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 作業の効率を高めるため、障子、襖、ドア等の建具は、1階部分から撤去した。
2. 外壁の断熱材として使用されているグラスウールは、可能な限り原形のまま取り外した。
3. 蛍光灯は、窓ガラスと共に専用のコンテナ容器内で破碎して、ガラス類として処分した。
4. 屋根葺き材は、内装材を撤去した後、手作業で取り外した。

[No. 23] アスファルト防水工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 防水下地となるコンクリートの入隅の形状は、通りよく45°の面取りとした。
2. 平場部のアスファルトルーフィングの重ね幅は、長手及び幅方向とも100mm以上とした。
3. 平場部のストレッチルーフィングの流し張りは、ルーフィングの両端からアスファルトがはみ出さないように押し付けながら張り付けた。
4. 砂付あなあきルーフィングを用いる絶縁工法の立上り部は、砂付あなあきルーフィングを省略した。

[No. 24] 外壁の張り石工事において、湿式工法と比較した場合の乾式工法の特徴として、最も不適当なものはどれか。

1. 台車等の衝突で張り石が破損しやすい。
2. 白華現象が起こりにくい。
3. 地震時の躯体の挙動に追従しにくい。
4. 工期短縮を図りやすい。

[No. 25] アルミニウム合金の表面処理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 陽極酸化皮膜の上に、クリア塗装する。
2. 硫黄を用いた硫化処理を行い、褐色に発色させる。
3. 化成皮膜の上に、樹脂塗料を焼付け塗装する。
4. 有機酸を用いた陽極酸化処理を行い、皮膜の生成と同時に発色させる。

[No. 26] 鋼製建具に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 建具枠の取付け精度は、対角寸法差を3 mm 以内とした。
2. 外部に面する鋼製ドアのステンレス製くつずりは、両端を縦枠より延ばし、縦枠の裏面で溶接した。
3. 外部に面する両面フラッシュ戸の見込み部は、上下を除いた左右2方のみ、表面板で包んだ。
4. くつずりは、あらかじめ裏面に鉄線を付けておき、モルタル詰めを行った後、取り付けた。

[No. 27] 塗装工事における素地ごしらえに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. モルタル面の吸込み止めは、パテかきを行った後に、シーラーを全面に塗り付けた。
2. せっこうボード面のパテかきには、合成樹脂エマルジョンパテを使用した。
3. 不透明塗料塗りの木部面は、節止めにセラックニスを塗り付けた。
4. 鉄鋼面に付着した機械油の除去には、石油系溶剤を使用した。

[No. 28] カーテン工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. カーテン上端の折返し長さは、使用するフック（ひるかん）の長さにより定めた。
2. 引分け式遮光用カーテンは、中央召合せを300 mm とした。
3. レースカーテンのカーテンボックスは、窓幅に対して片側各々150 mm 長くした。
4. レースカーテンの上端の縁加工は、カーテン心地を入れなくて袋縫いとした。

※ 問題番号 [No. 29] ~ [No. 38] までの10問題は、全問題を解答してください。

[No. 29] 事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 総合仮設計画に当たり、敷地周辺の電柱及び架空電線の調査を行った。
2. 解体工事計画に当たり、発生する木くずを再生するため、再資源化施設の調査を行った。
3. 根切り工事に当たり、埋蔵文化財の有無について調査を行った。
4. 防護柵の設置に当たり、敷地地盤の高低及び地中埋設配管の調査を行った。

[No. 30] 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 仮囲いには、合板パネルなどの木製材料を使用することとした。
2. 仮囲いを設けなければならないため、その高さは周辺の地盤面から1.5mとすることとした。
3. ハンガー式門扉は、重量と風圧を軽減するため、上部を網状の構造とすることとした。
4. 工事ゲートは、トラックアジテータが通行するため、有効高さを3.8mとすることとした。

[No. 31] 建築工事に係る申請や届出等に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 道路上に高所作業車を駐車して作業するため、道路使用許可申請書を警察署長宛てに届け出た。
2. 振動規制法による特定建設作業を指定地域内で行うため、特定建設作業実施届出書を市町村長宛てに届け出た。
3. 延べ面積が20m²の建築物を建築するため、建築工事届を市町村長宛てに届け出た。
4. 支柱の高さが3.5m以上の型枠支保工を設置するため、設置の届けを労働基準監督署長宛てに届け出た。

[No. 32] 工程計画及び工程管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ネットワーク工程表は、工程における複雑な作業間の順序関係を視覚的に表現することができる工程表である。
2. 基本工程表は、工事全体を一つの工程表としてまとめたもので、工事の主要な作業の進捗を表示する。
3. 工程計画を立てるに当たり、その地域の雨天日や強風日等を推定して作業不能日を設定する。
4. 各作業の所要期間は、作業の施工数量に投入数量と1日当たりの施工能力を乗じて求める。

[No. 33] バーチャート工程表に関する記述として、最も適当なものはどれか。

1. 工事出来高の累積値を表現しているため、工事進捗度合が把握しやすい工程表である。
2. 各作業に対する先行作業、並列作業、後続作業の相互関係が把握しやすい工程表である。
3. 作業間調整に伴う修正が容易な工程表である。
4. 各作業ごとの日程及び工事全体の工程計画が、比較的容易に作成できる工程表である。

[No. 34] 次の用語のうち、品質管理に最も関係の少ないものはどれか。

1. SMW
2. PDCA
3. ばらつき
4. トレーサビリティ

[No. 35] 品質管理のための試験及び検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 鉄骨工事において、高力ボルト接合部の締付けの検査のため、超音波探傷試験を行った。
2. シーリング工事において、接着性の確認のため、簡易接着性試験を行った。
3. コンクリート工事において、フレッシュコンクリートの受入れ検査のため、空気量試験を行った。
4. 鉄筋工事において、ガス圧接継手の検査のため、抜き取った接合部の引張試験を行った。

[No. 36] コンクリートの試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. スランプの測定値は、スランプコーンを引き上げた後の、平板からコンクリート最頂部までの高さとした。
2. 材齢が28日の構造体コンクリート強度の判定に用いる供試体は、現場水中養生とした。
3. 受入れ検査における圧縮強度試験は、3回の試験で1検査ロットを構成した。
4. スランプ試験は、コンクリートの打込み中に品質の変化が認められた場合にも行うこととした。

[No. 37] 作業主任者を選任すべき作業として、「労働安全衛生法」上、定められていないものはどれか。

1. 高さ5mの足場の変更の作業
2. 土止め支保工の切りばりの取り外しの作業
3. 軒高5mの木造建築物の構造部材の組立て作業
4. ALCパネルの建込み作業

[No. 38] 足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 枠組足場に使用する作業床の幅は、30cmとした。
2. 枠組足場の墜落防止設備として、交さ筋かい及び高さ15cm以上の幅木を設置した。
3. 移動式足場（ローリングタワー）の作業台上では、脚立の使用を禁止とした。
4. 移動式足場（ローリングタワー）の脚輪のブレーキは、移動中を除き、常に作動させた。

※ 問題番号 [No. 39] ~ [No. 42] までの4問題は応用能力問題です。全問題を解答してください。

[No. 39] 型枠の締付け金物等に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. セパレータは、せき板に対して垂直となるよう配置した。
2. 打放し仕上げとなる外壁コンクリートの型枠に使用するセパレータは、コーンを取り付けないものを用いた。
3. 塗り仕上げとなる壁コンクリートの型枠に使用するフォームタイと座金は、くさび式を用いた。
4. 柱の型枠に用いるコラムクランプは、セパレータと組み合わせて使用した。

[No. 40] レディーミクストコンクリートに関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. コンクリート荷卸し時のスランプの許容差は、スランプの値に関係なく一定である。
2. コンクリートに含まれる塩化物は、原則として塩化物イオン量で0.30 kg/m³以下とする。
3. 空気量の許容差は、普通コンクリートよりも高強度コンクリートのほうが大きい。
4. 単位水量は、最大値を185 kg/m³とし、所定の品質が確保できる範囲内で、できるだけ少なくする。

[No. 41] 仕上塗材仕上げに関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 各工程ごとに用いる下塗材、主材及び上塗材は、同一製造所のものとした。
2. 仕上塗材の所要量は、被仕上塗材仕上面の単位面積に対する希釈前の仕上塗材の使用質量から算出した。
3. 屋外や室内の湿潤になる場所の下地調整に用いるパテは、合成樹脂エマルジョンパテを使用した。
4. シーリング面への仕上塗材仕上げは、シーリング材の硬化前に行った。

[No. 42] 床のフローリングボード張りに関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. フローリングボードに生じた自違いは、パテかいにより平滑にした。
2. フローリングボード張込み後、床塗装仕上げを行うまで、ポリエチレンシートを用いて養生をした。
3. フローリングボードの下張り用合板は、長手方向が根太と直交するように割り付けた。
4. 隣り合うフローリングボードの木口の継手位置は、すべて揃えて割り付けた。

※ 問題番号 [No. 43] ~ [No. 50] までの8問題のうちから、6問題を選択し、解答してください。

[No. 43] 建築確認手続き等に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 特定工程後の工程に係る工事は、当該特定工程に係る中間検査合格証の交付を受けた後でなければ、これを施工してはならない。
2. 建築主事は、木造3階建ての建築物の確認申請書を受理した場合、受理した日から35日以内に、建築基準関係規定に適合するかどうかを審査しなければならない。
3. 工事施工者は、建築物の工事を完了したときは、建築主事又は指定確認検査機関の完了検査を申請しなければならない。
4. 鉄骨造2階建ての建築物の建築主は、原則として、検査済証の交付を受けた後でなければ、当該建築物を使用し、又は使用させてはならない。

[No. 44] 次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 居室の天井の高さは、室の床面から測り、1室で天井の高さの異なる部分がある場合は、その平均の高さによる。
2. 映画館における客用の階段で高さが3mをこえるものには、3m以内ごとに踊場を設けなければならない。
3. 木造3階建ての住宅の3階に設ける調理室の壁及び天井の内装は、準不燃材料としなければならない。
4. 階段に代わる傾斜路には、原則として、手すり等を設けなければならない。

[No. 45] 建設業の許可の変更に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 許可を受けた建設業の営業所の所在地について、同一の都道府県内で変更があったときは、その旨の変更届出書を提出しなければならない。
2. 許可を受けた建設業の業種の区分について変更があったときは、その旨の変更届出書を提出しなければならない。
3. 許可を受けた建設業の使用人数に変更を生じたときは、その旨を書面で届け出なければならない。
4. 許可を受けた建設業の営業所に置く専任の技術者について、代わるべき者があるときは、その者について、書面を提出しなければならない。

[No. 46] 工事現場における技術者に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 主任技術者は、工事現場における建設工事を適正に実施するため、当該建設工事の施工計画の作成、工程管理、品質管理の職務を誠実に行わなければならない。
2. 主任技術者を設置する工事で専任が必要とされるものは、同一の建設業者が同一の場所において行う密接な関係のある2以上の工事であっても、これらの工事を同一の主任技術者が管理してはならない。
3. 建築一式工事に関し10年以上実務の経験を有する者は、建築一式工事における主任技術者になることができる。
4. 工事現場における建設工事の施工に従事する者は、主任技術者又は監理技術者がその職務として行う指導に従わなければならない。

[No. 47] 次の業務のうち、「労働基準法」上、満17才の者を就かせてはならない業務はどれか。

1. 屋外の建設現場での業務
2. 動力により駆動される土木建築用機械の運転の業務
3. 最大積載荷重1tの荷物用エレベーターの運転の業務
4. 20kgの重量物を断続的に取り扱う業務

[No. 48] 「労働安全衛生法」上、事業者が、所轄労働基準監督署長へ報告書を提出する必要があるものはどれか。

1. 産業医を選任したとき
2. 安全管理者を選任したとき
3. 総括安全衛生管理者を選任したとき
4. 安全衛生推進者を選任したとき

[No. 49] 建設工事に伴う次の副産物のうち、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)」上、特定建設資材廃棄物に該当するものはどれか。

1. 場所打ちコンクリート杭工事の杭頭処理に伴って生じたコンクリート塊
2. 住宅の屋根の葺替え工事に伴って生じた粘土瓦
3. 基礎工事の掘削に伴って生じた土砂
4. 鋼製建具の取替えに伴って生じた金属くず

[No. 50] 「騒音規制法」上、指定地域内における特定建設作業を伴う建設工事の施工に際し、市町村長への届出書に記入又は添附する必要のないものはどれか。

1. 建設工事の目的に係る施設又は工作物の種類
2. 特定建設作業の開始及び終了の時刻
3. 特定建設作業の工程を明示した工事工程表
4. 特定建設作業に係る仮設計画図